古代水戸の史跡と神社の伝説マップ

茨城大学教育学部附属中学校一年　佐々木あすか





神社について調べていくと水戸にも千年以上の歴史を持つ神社がたくさんあることに驚きました。これらの神社には昔の英雄や人々についての伝説や民話が伝えられていて、古代水戸の様子を思い浮かべることができました。

たくさんある伝説の中でも多く登場する日本武尊、建借馬命、源義家を中心に平安時代までの伝説を選び、関係する神社や史跡と地図に表してみました。地図を見るとこの3人に関係する場所が、那珂川沿いにほぼ直線に並んでいるのに驚きました。

1　藤内神社：水戸市藤井町874

祭神：経津主命（ふつぬしのみこと）

養老5年（721年）4月12日夜明け、神社の遥か西方にある朝房山の峰に霊光が輝き、その光が藤内郷を指して降り、この地にとどまった。人々は驚き恐れ、社殿を建て同年6月15日祭った。(2)

康平5年（1062年）源義家が奥州征伐に向かう途中、武運長久を祈願した。その際、社前の藤の枝を申し受けて鞭とした。(2)

寛政12年（1800年）当時伝染病が流行ったとき、茅の輪を作り、輪くぐりの神事を行ったところ病魔が治ったという。以来毎年欠かさず行われ、地区内に疫病が流行ることがなかったという。(2)

2　十万原（現、水戸市藤が原）

源義家が十万の兵を率いて、藤内神社に武運長久を祈願する際に、兵を集結させた原を十万原と呼ぶようになったと言われる。(5)

また、十万原には水戸市最古の先土器時代の遺跡があり、水戸を含む周辺地域で人々が生活を始めた年代は約3～4万年前ではないかと推定されている。(9)

3　大井神社：水戸市飯富町3475

祭神：建借馬命（たけかしまのみこと）

東夷平定の勅命を受けてこの地を平定した建借馬命は、その功により初代仲（那賀）国造に任じられ、長者山（水戸市渡里町）に館を構えた。そして、乾の方角（北西）のこの地に神社を創建し、天照大神を祭った。その後奈良時代になり、有力な郡領宇治部氏により建借馬命が祭られた。(2)

建借馬命は、干ばつに悩む住民のために井戸を掘って救ったといわれ、現在も神社の高台下、旧国道沿いに「大井」、「仲井」、「加清井」と呼ばれる当時の井戸（三寒泉とも呼ばれる）がある。(1)

付近には他にも湧水が点在しており、小さな祠や大井神社のおれがたくさん見られる。

4　台渡里官衙遺跡群

飛鳥時代から平安時代の大規模な寺院や役所の遺跡があり、国指定史跡になっている。

水戸市は、奈良・平安時代には那賀郡に属していて、この遺跡のある台渡里はその中心地だった。火災で焼けた米がたくさん発見されたことから、役所の倉庫群があったと考えられているが、これらが一盛長者の伝説につながっていると考えられている。(1)(4)

一盛長者伝説

むかし、台渡里の長者山（現在の水戸市渡里町）というところに一盛長者と呼ばれた豪族が住んでいた。

後三年の役（1083～87）のころ、源義家が十万の兵を率いて奥州へ行く途中、一盛長者の屋敷に立ち寄った。

長者は驚くようなご馳走で十万人の兵を三日三晩もてなした。奥州を平定した帰り、再び一盛長者の屋敷に立ち寄ったところ、前にもましてのもてなしをうけ、義家は「このような富豪は、他日かならずわざわいになる。」と考え、夜に屋敷に火を放ち、一族を滅ぼしてしまった。

これと似た話が、那珂郡緒川村（現：常陸大宮市）に国長（くにおさ）長者の話として、西茨城郡岩間村（現：笠間市）に特次長者（東長者、朝日長者とも呼ぶ）の話として、行方郡玉造町（現：行方市）に唐が崎長者の話として、新治郡桜村（現：つくば市）に長者屋敷の話として、それぞれ伝えられている。(5)(6)(7)(10)

5　愛宕神社（愛宕山古墳）：水戸市愛宕町10-5

祭神：火之迦具土神（ひのかぐつちのかみ）

天慶元年（938年）に平国香が京都の愛宕神社より分霊をいただき、常陸国府や（現在の石岡市）に祭った。その後、国香の子である貞盛が長和3年（1019年）に旧水戸城内に移し、さらに元亀年中（1570年～72年）に当時の城主江戸道緑が水戸城外三の丸に移し、一般の崇敬参拝を許した。後の天正8年（1580年）、佐竹義宣が現在地に移し祭ったと伝えられる。社殿は東方の水戸城を守護し、現在も火伏せ（火除け）の神として広く信仰されている。(2)

この地は以前、三島山と呼ばれ、一盛長者の守護神と伝えられる三島神社が祭られていた。愛宕神社の遷座により、現在は側社として右側に移されている。(1)

社殿は国の史跡愛宕山古墳上にあり、この古墳は6世紀初頭のものと見られ、県内第三位の規模の前方後円墳で、初代仲国造建借馬命の墳墓と考えられている。(2)(3)

6　別雷皇太神：水戸市元山町1-1-57

祭神：別雷命（わけいかずちのみこと）

聖武天皇神亀元年（724年）、常陸国主藤原宇合は勅命によって蝦夷征伐におもむく際、東北地方鎮護の神として、京都「賀茂別雷神社」の分霊を当地に祭ったことが創始とされる。関東三雷神の一つである。(2)

社宝の散々楽（ささら）は、一盛長者の宝の獅子頭で、長者が愛玩していたものと言われる。後三年の役のころ、東征帰りの源義家に攻め込まれた長者が、滅亡に際しこの散々楽が失われることを惜しみ、家来に持ちださせたものといわれている。(2)

7　鹿島香取神社：水戸市青柳町434

祭神：武甕槌命（たけみかづちのみこと）経津主命（ふつぬしのみこと）

創建の年代は明らかでないが、東征神社の記録によれば、皇紀742年（82年）東征で那珂川をさかのぼった日本武尊は、那珂川対岸の青柳に上陸し、戦勝を祈って鹿島、香取の二神を祀り、青柳明神と称したのが起源とされる。(2)

康平3年（1060年）には、源頼義が奥州征討の途すがら戦勝を祈願し、神器神宝を奉献したと伝えられる。(2)

8　東征神社：水戸市吉沼町2389

祭神：日本武尊（やまとたけるのみこと）

日本武尊が東征のとき、この地に上陸して舟を乗り捨てたという。当時の舟は丸木舟で、村人が後に舟を埋めたところを東征舟といい、今でも舟のへさき、とも、いかりが埋められているという。

元禄年代に光圀公がこの地の田を掘らせたところ、伝説のとおり舟があったので、最寄りの高台に社殿を建てさせたのが起源とされる。この神社のご神体は、その舟のへさきであるという。(2)(5)

9　吉田神社：水戸市宮内町3193-2

祭神：日本武尊（やまとたけるのみこと）

昔は那珂川の河口も今よりずっと川上に寄っていて、千波沼（千波湖）もずっと大きく、吉田神社のある丘（朝日山）のすぐ下まで水が満ちていた。尊が東征の帰途、軍船で那珂川をさかのぼり、この丘に上陸して兵を休ませたという。この故事にちなんで、この地に神社を創建し尊を祭った。神社の古文書から欽明天皇（485年）～仁賢天皇（498年）の時代の創建とされる。日本武尊を祭る神社では関東最古という。(5)(7)(8)

参考資料
(1)生子朱明：「みと：現時点でとらえた水戸の過去と将来」（水戸ぼうむなみど社）、1970年
(2)茨城県神社誌編纂委員会：「茨城県神社誌」（茨城県神社庁）、1973年
(3)水戸市教育委員会：「みと」（水戸市教育委員会）2015年
(4)水戸市教育委員会：台渡里官衙遺跡群解説看板
(5)藤田稔 編著：「常陸の伝説」（第一法規出版）1976年
(6)茨城新聞社 編：「茨城の史跡と伝説」（暁印書館）1986年
(7)いばらき新聞社：「茨城の傳説」（いばらき新聞社）1956年
(8)吉田神社由緒
(9)川口武彦：「水戸を訪れた歌初の人々 十万原遺跡」（広報水戸2011.5.1）2011年
(10)藤田稔 編著：「水戸の民話」（暁印書館）1998年